

2024 年度第 1 回浜松市総合教育会議

開催日時：2024 年 8 月 26 日（月）15:30～16:30

出席者：市長、教育長、黒柳委員、田中委員、神谷委員、鈴木委員、下鶴委員

傍聴者：1 名、報道関係者 2 名

開催場所：浜松市役所庁議室

次第

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 協議事項
浜松市教育推進大綱について
- 4 報告事項
第 4 次浜松市教育総合計画の進捗について
- 5 閉会

1 開会

（企画調整部長）

ただいまから、2024 年度第 1 回浜松市総合教育会議を開会いたします。

それでは、会議の開催にあたり、市長からごあいさつをお願いいたします。

2 市長あいさつ

（市長）

今年度第 1 回目の総合教育会議ということで、委員の皆さまには大変お忙しい中をお集まりいただきまして、ありがとうございます。

今回、昨年開催いたしました 2 回の会議に引き続きまして教育推進大綱についてご協議をいただくこととしております。また、併せて第 4 次浜松市教育総合計画の進捗についても、報告をさせていただくこととしております。

教育推進大綱につきましては、昨年度第 1 回目の総合教育会議において国の動向や他の政令指定都市の状況について共有をいたしまして、方向性についてご議論をいただきました。第 2 回の会議においては大綱の体裁や計画期間を 5 年間とするということを決めたところでございます。また、関連する計画や国の第 4 期教育振興基本計画の理念、キーワードを元に委員の皆さまから様々なご意見を伺いました。

今回、これまでの2回の議論を踏まえまして、具体的な大綱の案を作成いたしましたので、今日はこれについて皆さまにご協議をいただくこととしております。また併せて、この大綱とも関連をしております第4次教育総合計画の検討状況については、教育委員の皆さまは十分ご承知だとは思いますが、改めて報告を受けることとしております。

本日は大変限られた時間の中ではありますけれども、本日の議論、ぜひとも実りあるものとなりますよう、委員の皆さまから忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。今日はどうぞ、よろしくお願いいたします。

(企画調整部長)

ありがとうございました。

続きまして、次第の3、2024年度の協議事項について事務局からご説明いたします。

3 2024年度の協議事項

(企画課長)

それでは資料1をお願いいたします。資料1「2024年度の協議事項について」でございます。上の第1回のところが本日でございます。先ほど市長がおっしゃったとおり、協議事項として「浜松市の教育推進大綱について」、報告事項として「第4次浜松市教育総合計画の進捗について」ということでございます。

それから下でございます。2回目の開催でございますが、現在12月から2月の間で日程を調整させていただいているところでございます。協議事項としましては、教育推進大綱について決定をしていきたいと考えているところでございます。併せて、不登校、それから外国人の児童生徒への支援についてご協議をいただければと考えています。資料1の説明は以上でございます。

(企画調整部長)

それでは、本日の議題に移ります。ここからの進行は市長にお願いします。

4 協議事項

(市長)

それでは、お手元の次第に沿って議事を進めていきたいと思っております。次第の4協議事項についてとなります。資料2の浜松市教育推進大綱について、まずは事務局から説明をお願いします。

(企画課長)

資料2をお願いします。浜松市教育推進大綱の(案)ということで、昨年度の第1回、第2回の総合教育会議でご協議をいただいたうえで、今回案をお示しさせていただくものでございます。

はじめに、上の四角に囲まれたところでございますが、こちらは市の教育に関する基本的な考えを市長の思いも含めて記載をしたものです。前段では、本市の特色、それから魅力、多くのポテンシャルがあることなどに触れたうえで、“やрмаいか”のチャレンジ精神が1番の強みであるという訴えをしてございます。

2段落目からは、未来を担うこどもたちが可能性を最大限に広げ成長できるよう、地域や社会全体で育てていく、それから市民誰もが生涯を通じて学び続け、誇りに思い自分らしく生きられる社会を目指すといったところを記載しておりまして、最後の段落で、すべての市民が幸福を実感し、住み続けたいと思えるまちを実現しますとしております。

その下は、3つの柱を設定しております。まず1つ目ですが、「次代の浜松をつくる人材を市民協働で育成します」としておりまして、1ポツ目として、「学校・園、家庭、市民活動団体、地域など社会全体で助け合い、支え合い、学びあうことで互いに成長できる機会を創出します」。2ポツ目として、「地域の魅力や価値を学び、地域への愛着や誇りを持ち、浜松の未来を担う人材を育成します」としております。

2つ目の柱でございます。「こどもが成長できる環境を整え、豊かな学びと健やかな育ちを支えます」。1ポツ目として、「不登校、外国籍、障がいのあるこどもへの支援や、いじめの未然防止や見逃しを防ぐなど、誰もが安心して教育が受けられる場を整備します」。2ポツ目として、「すべてのこどもが社会性や自己肯定感を高め、将来に夢や希望を持つことができる社会を実現します」。3ポツ目として、「デジタルツールを活用した学びを充実していきます」。

それから、3つ目の柱でございます。「多様な人々が創造性を発揮できる社会を形成します」としておりまして、1ポツ目、「市民一人ひとりが描く夢や未来の実現に向けた、新しいチャレンジを後押しします」。2ポツ目として、「音楽、芸術、スポーツ、伝統文化などを通じて、生涯学習の機会を創出します」。「互いの個性や文化を理解し、尊重し合いながら、住民の多様性を活かすまちづくりを推進します」としております。以上が、教育推進大綱の案でございます。説明は以上でございます。

(市長)

ただいま事務局から説明のありました資料2 浜松市教育推進大綱の(案)ですけれども、まずご質問、ご不明な点などありましたら、お受けをしたうえで、その後お1人ずつからご意見、ご提案含めてお話をいただけたらと思っております。

最初に、説明の内容含めて、ご質問などありましたらお受けをいたしますけれども、いかがでしょうか。特によろしいですか。

それでは、せっかくの会議でありますので、皆さまお1人ずつからこれについてご意見、あるいはもっとうこうした方がいいというようなご提案などありましたら、お聞かせをいただきたいと思っております。では、初めてのご参加で申し訳ないですが、下鶴委員からお願いします。

(下鶴委員)

丁寧なご説明ありがとうございました。感想になってしまうかもしれませんが、気づいた点をお話させていただければと思います。

先ほど市長からお話がありました国の教育振興基本計画。これを踏まえて浜松も教育推進大綱を策定するというところでございます。教育振興基本計画には2つのコンセプトがあったように思っております。1つが、持続可能な社会の創り手の育成、もう1つが、日本社会に根差したウェルビーイングの向上ということだったと思います。私は、この持続可能な社会の創り手という、“創り手”という言葉大切にしたいかなと思った次第です。

先ほど、ご説明がございましたけれども、冒頭のリード文の中の2段落目に「この素晴らしいまち浜松の未来を担うこどもたちが」とございます。よく担い手とかですね、そういう言葉を使っておりましたけれども、改めて国が創り手という、創るという文言を出してきましたので、浜松もより主体性とか創造性のある言葉、例えば「未来を創るこどもたちが」とした方がインパクトがあるかと思えます。自分事として浜松の未来をこうやってつくっていくんだという点が強調できるかなと思った次第です。

そうすると、リード文の下の3本の柱がございしますが、その1つ目の柱にございます、「次代の浜松をつくる」という、この「つくる」とも整合性がとれるのではないかなと思えます。併せて、1つ目の柱の2ポツ目、「地域の魅力や価値を学び、地域への愛着や誇りを持ち、浜松の未来を担う」ここも「つくる人材を育成します」とした方が、先ほども言いましたけれども、より主体性、創造性、そんなものをインパクトあるように説明できるのではないかなと思いました。

また、1本目の柱の1つ目に、「学校・園、家庭、市民活動団体」とございます。これまで教育現場では、こどもたちの学びの連続性をみて、園・学校と言っていたのですが、「学校・園」と変わっているという何か意図があったのかどうか、その点も踏まえてご質問できたらなと思えます。以上です。

(市長)

はい、ありがとうございます。まず、「学校・園」は何か意図がありますか。

(企画課長)

特に何か意図を持って「学校・園」としたものではありません。

(下鶴委員)

かしこまりました。ありがとうございます。

(市長)

特段意図がなければ、通常使う言い回しに変えた方がいいですか。

(下鶴委員)

そうですね。わりと教育現場でも「園・学校」という使い方が多いと思います。

(市長)

浜松をつくるのか担うのかのところは、やはり統一した方がいいということですか。

(下鶴委員)

はい。ご検討いただければと思います。

(市長)

ありがとうございます。

(鈴木委員)

2点あります。1点目につきましては、四角で囲ったところの3行目で、「“やらまいか”の精神」が非常にうまく表現されているなと思いましたので、感謝申し上げます。もう1点は、1行目から2行目「豊かな自然環境に囲まれ」と書かれているんですけども、「囲まれ」というのは浜松市のホームページのところで、東西南北こういう環境に囲まれているという表現があるのですが、「豊かな自然環境に囲まれ」というのが何となくどうなのかなと素朴に思いまして、豊かな自然環境だったら「恵まれ」の方がいいのではないかなというのが率直な感想でしたので、ご検討いただければと思います。

(市長)

確かに、言われてみますと「豊かな自然環境に恵まれ」の方が良さそうな感じですか。また検討するようにさせていただきます。

(神谷委員)

冒頭の内容と柱の内容の区別や文章はいいものと思っています。この「わがまちを誇りに思う」や「地域への愛着」というのは、どこの市町村においても書かれていることですが、実際、地域への愛着とか誇りというのは、今の人たちがすごく感じるものがあるかと

いうと少ないので、その辺の気づきや、今の課題がもし具体的にあれば、市長も含めてお考えを聞かせていただければと思います。

(市長)

私も浜松で生まれて、高校までは浜松で過ごしましたがけれども、その後は全国を転々としていましたので、他の地域に行って比較をすると、「やっぱりふるさと浜松っていいな」と感じます。ずっとここにいると、むしろ案外わからなかったりするのかもしれない。そう考えると、この気づき、われわれが住んでいると言いますか、生まれ育ってきた浜松がいかにか素晴らしいところかということ、気づくような機会は必要だと思っていて、教育ということは置いておくにしても、今年は浜松市長部局で、それこそ「浜松学」を立ち上げて、浜松の魅力再発見みたいなこともやっています。

一方で、地域の頑張っている企業の社長などに、地元の中学校に行ってもらい、普段通学している通学路にあるうちの会社では、実はこんなものを作っていて、それは実は世界的なシェアがあるとか、日本でもここにしかない技術があるとか、そういうものをつくっているなどと講演してもらうなど、いろいろな形で地域のことをもう一度再発見してもらうような機会をつくることを今やっております。

それをぜひ教育の現場でも取り入れていただきたいと思っており、特にいろいろな教科別の成績上げることが大変だったり、保護者の皆さんとのお付き合いの仕方や子どもたちの間の人間関係などに時間をかけるような中で、なかなか地域のことに目を向けるというのは難しいところもあるのかもしれませんが、これからの浜松をつくってもらう若者たちですから、もうちょっと地域のこと、自分の住んでいる環境のことに目を向けてもらう機会を、ぜひとも意識的につくってもらうことをわれわれとしてもお願いをしたいなと思います。教育現場だけでなく、市長部局ともうまく連携をしながら、できたらと思っているところです。

(神谷委員)

ありがとうございます。浜松の人口はかなり日本の中でも上位な方で、トップ 20 位には入っていますが、中に住んでいる若者たちから「浜松って何にもないんだよね」ということを結構耳にします。遠方から来ている静岡大学の学生などに聞くと、「浜松はすごい都会ですよ。大都会ですよ。うちの田舎に比べればすごいですよ」というこのギャップがすごい。名古屋や東京圏に囲まれていて、それなりの都市を形成している環境があるにも関わらず、自分たちは何もないとか、恵まれていないと思いがちなところを、教育もそうですし、市の方もいかに魅力を発信するかというのは、ぜひとも前向きに考えていただければと思います。

(市長)

ありがとうございます。

(田中委員)

まず四角に囲まれた中で、1番最後の方ですね「年齢、性別、国籍を問わず」というところで明記していただきました。今まではやはり互いの文化や価値観を認め合うという言葉で包括されていたところを、このように明確に示していただいたということは、多様性に目を向けたときに、具体的であって言葉としては良い印象を受けました。

3つの柱の3つ目の2ポツ目に、「スポーツ」という言葉を入れていただき、ずっとそれがなかったものですから、今回これを入れていただいたことで、目を向けるきっかけになればいいなと思っている次第です。

2つほど、事務局にお尋ねしたいことがあるのですが、まず2つ目の柱の1つ目のポツ、「不登校、外国籍、障がいのあるこども」ということで、特出しされていますけれども、こちらはやはり文科省などでも今の学校の問題として取り上げられることは多いのですが、浜松市としても経済的に不安があるこども等の支援としてこども食堂やこどもの学習支援を行っていたり、特に大きな地元企業さんも賛同いただいてやっていたりしています。

あと、福祉的な支援を必要とするヤングケアラーの問題もありますので、浜松市の特徴だとして捉えるのであれば、もう少し書き方として幅を持たせるのか、逆に絞ってあるものをもう少し抽象的な表現にするのかについて、考えをお聞きしたいのが一点。

2点目に、3つ目の柱の1ポツ目、「市民一人ひとりが描く夢や未来の実現に」というところですが、ここは「市民」と書いてありますから、私もそうなのだと思って、描く未来や夢かと思いました。日々いろいろなものに追われていますと、なかなかそういうことに目が向けられないのですが、やはり新しいチャレンジを後押ししてくださると、そのところの浜松市として「後押しする」という言葉は心強いのですが、ちょっと抽象的すぎまして、例えばどのようなことを示していらっしゃるのか、をお聞きしたいです。

(企画課長)

3つ目の柱の1ポツ目でございますけれども、少し抽象的な表現ということで、「市民一人ひとりが描く夢や未来の実現に向けた」ということなのですけれども、取り組みとして、まずリスキングと呼ばれるような知識や経験を有している市民の皆さんによる生涯学習講座や講師の養成、それから産学官の連携による特別課外講座を想定しておりまして、どなたでも将来に向かっていつでもスキルを磨き直すことができることをイメージして記載をしたものでございます。

それから、2つ目の柱の1ポツ目、「不登校、外国籍、障がいのある子ども」というところの表現が、少し限定的になりすぎているのではないかというご意見かと思えますけれども、ご意見承りまして今後少し検討させていただければと考えています。

(市長)

教育推進大綱といったときに、どこからどこまでをターゲットとして捉えるかということは、難しいところではあると思うのですが、それこそ子ども食堂をはじめとする、生活に困窮されている方々への支援みたいなことまでを、教育という範疇でうまく捉えられるのかは、なかなか悩ましいところもあります。ただ、もちろん非常に重要なテーマでもありますので、教育推進大綱から外れたところはもう一切やらないというわけでも決してありません。今の段階ではこういうような表現で、ターゲットとするところを整理しているということになりますけれども、よろしいですか。

(田中委員)

承知いたしました。

(黒柳委員)

今回挙げられた教育推進大綱ですけれども、読むとすんなり入ってくるというか、難しい言葉がなくて、誰が読んでも受け入れられるような文章でまとめているので、すごくいいのではないかと思います。その中で、四角の枠の中6行目のところですが、「市民の誰もが生涯を通じて学び続け」ということで、生涯教育の観点について挙げられているのかなという感じを受けました。

そこで2ポツ目ですけれども、子どもに特定されていますが、生涯教育を視野に入れて考えていただくと、大人という言葉も入っていいのかなというふうに思いますので、大人も子どもも成長できる環境とか、すべての大人と子どもがというかたちで入ってくると、どなたも学ぶ機会が与えてもらえると捉えられると思います。

1ポツ目の不登校やいじめというのは、子どもだけではなくて、大人でも自分のわが子を育てている中で不安を感じることもあるので、やはりそういったかたちで安心して教育が受けられるのであれば、そこに子どもを育てる大人も学べるというかたちで考えていただけたら嬉しいと思います。1つ目の「教育が受けられる場」というのも、大人が入るのであれば学べる場とか、学ぶ場というかたちにさせていただけるといいのかなと感じました。以上です。

(市長)

ありがとうございます。生涯学習、大人の学びについての支援についてはどう整理しているのですか。

(企画課長)

案の中では3つの柱、「多様な人々が創造性を発揮できる社会を形成します」の中で、生涯学習ということで大人の学びについては整理をさせていただいているところでございます。

(市長)

そうすると、この2つ目の柱のところは。

(企画課長)

こどもの教育に重点を置いて記載をしたものとなっています。

(市長)

整理としてはそういうことで、2つ目の柱はどちらかというところにも重点を置いていて、大人については3つ目の柱のところということ念頭にしているのですが、もう一度大人も含めた学習の機会という点でどうそれぞれ整理するといいかは、考えてまいります。

(黒柳委員)

はい。

(教育長)

教育委員会で策定している第4次浜松市教育総合計画の3つのキーワードの1つに包摂性がありますが、今回の大綱にも、四角の中に、例えば「誰もが」、「すべての市民が」、「すべてのこどもが」という言葉が取り上げられているというのは、第4次教育総合計画をつくるにあたって方向性が同じだと感じました。

また、3つ目のポツの「描く夢や未来の実現」という言葉も、同じような文言があり、教育委員会としても、計画の策定にあたり大綱と同じ方向で進めやすいと思っています。

(市長)

ありがとうございます。一通りご意見を承りましたが、他の委員の皆さまのご意見を踏まえて、さらに何かあればお願いします。

(神谷委員)

先ほどの話に少し戻るのですが、教育推進大綱は、こどもと大人も含まれているところも若干あり、関連としてもう1つ、生涯学習推進大綱というものもありまして、そちらとの兼ね合いや対象をどうするかを教えてくださいなと思っています。

(市長)

生涯学習推進大綱との整理はどういうことになっていますか。

(企画課長)

教育推進大綱は教育全体の方向性をお示ししていて、その中の生涯学習の部分の具体的な方向性を、生涯学習推進大綱の方でお示しているということになります。

(市長)

イメージとしては、浜松市の総合計画という最上位計画というのがありまして、その下に浜松市教育推進大綱があって、浜松市教育推進大綱の下に生涯学習推進大綱があるというイメージではないかと思います。生涯学習推進大綱の改定のタイミングはいつになりますか。

(市民部文化振興担当部長)

今年度中に案をまとめて、来年度中の改定を予定しております。

(市長)

教育推進大綱がまずあって、それを元に学校教育であれば教育総合計画があって、生涯学習は生涯学習推進大綱があってという形で、それらをまとめて今回見直しをかけるというような構図になると思います。

(神谷委員)

ありがとうございました。

(市長)

他にいかがでしょうか。

(下鶴委員)

3本目の柱でございます。生涯学習は、まさに生涯にわたって学んで、またそれを活かす学習機会を提供するという事だと思えます。しっかりまとまっているかなと思えますが、その1つ目のポツです。こだわっているのかもしれませんが、「市民一人ひとりが描く夢や未来の実現に向けた、新しいチャレンジを後押しします」ということです。チャレンジは新しくないと駄目でしょうか。何度も何度も挑戦する姿も応援していただくとありがたいと思うわけです。

今、こどもたちには挑戦し続けるとか選択と挑戦を繰り返す、その中で自己調整していかうとするこどもを育成しようと考えている中で、それも含めて新しいチャレンジという

ふうにおっしゃっているのかもしれませんが、挑戦し続けるという意味合いを含めた文言があるといいと思いました。それが1つ目です。

それから、3つ目のポツですが、ますます今後は外国人が浜松に入って社会を形成していくとするならば、多様性を活かす、多文化共生のまちづくりを推進しますという、「多文化共生」という言葉もここに入ると、多様性を認め多文化共生というのがもっと色濃く出せるかなと思います。その2点です。よろしくお願いいたします。

(市長)

はい。チャレンジは何となく毎回新しいような気がしますけれども、再チャレンジの話もあるわけですね。その辺は整理します。また、多文化共生は当然、われわれ浜松市にとって非常に重要な要素ではありますので、どこかうまく組み込めるかについても、また整理します。

(下鶴委員)

はい。ありがとうございます。

(鈴木委員)

言葉の問題ですが、この中に「実現する」という言葉と「形成する」という言葉があって、これはイコールかなとみています。あと「目指す」という言葉も使っていて、例えば「目指す」と「実現する」を分けているところは、何らかの理由があって、ここは目指す、実現するのではないというところがあったら教えていただきたいです。

(市長)

その辺の整理はどうでしょうか。

(企画課長)

まず「目指します」のところ、上の四角の2段落目のところになるのかなと思いますけれども、社会ということもありますし、少し将来に向かって目指して行くものというかたちで、「目指します」ということで記載をしております。あとは、大きな違いがあるものではないですけれども、現実味の近いものについては、「実現する」というような表現をなるべく使わせていただくようにしております。

(市長)

ちょっとゴールが壮大で、ゴールが先の方にありそうなものは「目指し」ているのだと思います。できるだけ大綱の計画期間中にゴールを切りたいものは「実現します」くらいではないかなと。

(下鶴委員)

質問ではないですが、少し話をさせていただければと思います。

先ほど来、地域の魅力や価値を学んで、地域への愛着や誇りを持ち、浜松の未来をつくる人材を育成しますということで、ふるさと浜松をどう愛するかというようなことが問われることが話題になったと思います。

実は私、退職をして、今から2年前になるでしょうか。天竜区へ出かけたことがございます。食堂で昼食をとって会計を済ませたところで、1枚のこの紙が目にとまったわけです。会計をした場所の横に、「住もうよ〇〇、通おう～小へ、～小学校は新しい仲間を歓迎します」という1枚の両面刷りのプリントでした。それを手にした瞬間、すぐこれは子どもたちがつくったのだとわかりました。「浜松の中心部から1時間20分、全校児童は少ないですが、小さな学校ならではの特色を活かした授業を受けながら、私たちは毎日楽しく充実した学校生活を送っています。豊かな自然と温かな地域の皆さんに囲まれながら、のびのびと成長することができるとてもすてきな学校です。ぜひ、私たちの仲間になりませんか。私たちの毎日はこちらからご覧になれます。」とブログのことが書いてありました。

裏を見ると、その学校の4つの魅力というのを、子どもたち目線でしっかりまとめてあります。充実した楽しい授業です。授業で使う器具がたくさんあって、全員が1人1つ器具が使い、順番を待っていなくても自分で1つ実験ができるということ。豊かな自然、温かな地域で、学校の花壇とかは地域の人たちと一緒に作って、その花をまた入学式、卒業式で使っているということ。それから、全員が主役になれる学校行事、準備は大変だけれども、達成感は一倍出るということ。年上、年下皆大切な友達というようなことを、子どもならではの視点でその学校の魅力をしっかりと捉え、まとめたものが置いてありました。

後で聞きましたら、学校の人数が少なくなってしまう、ひょっとしたらこの学校が閉校になってしまうから、何とかしたいということで6年生が、授業の中で発信しよう、僕たちの学校の魅力を、僕たちの住むまちの魅力をということでまとめたのだそうです。そしてそれを地域の人が、こんなにすてきにまとまっているのだったら、地域のお店とか支所とか、多くの人が訪ねるところに置いたらどうだと言ってくださって、置くことができたということでした。

後日談があり、その後、転校生が入ったとのこと。お父様がブログを見て、山あいのこの学校にしようと思ったと。それはきっとこの子どもたちにとって、大きな勇気とか誇りだとか心の支えになったのではないかなと思います。本当に自分のまちを誇れる、自分の学校を誇れる、それは子どもたちにとって大きな財産になると思います。そこでやっぱり、学校や地域はそれなりに子どもに未来を託すのであるならば、そこに自信を持って成長してほしいという願いを持って皆で育てていく、そんな必要性があるかなと思います。

地域の宝として愛情を注がれた子どもたちは、浜松のまちに誇りを持って、いずれは世界を舞台に活躍できる、そんな子どもになるのではないかなと、この1枚のパンフレットが教えてくれた次第です。長い時間申し訳なかったですが、ぜひこれは伝えたかったんです。

(市長)

ありがとうございます。子どもたちの思う自分たちの地域に目を向けて、自分たちで積極的に行動するというのも大事ですし、また、そういった子どもたちの学びとか育ちとかを、地域全体で支えるというのも大事な話だと思いますので、単に教育現場の閉ざされた世界ではなく、地域全体で教育をしっかりやらないといけないなど、今回の教育推進大綱は、そうつながっていければなと思っています。

それでは、委員の皆さまから、様々なご意見、ご提案をいただきましたので、内容を改めて検討させていただいたうえで、この教育推進大綱最終案策定に向けて、作業を進めていきたいと思っております。今日、ご意見承ったこと以外にも何かお気づきの点などありましたら、追って事務局の方にもお話をいただければと思っておりますので、引き続きよろしく願いいたします。

それでは、4番の協議事項についてはこの程度とさせていただきます、続いて次第の5番目の報告事項に移らせていただきます。

5 報告事項

(市長)

第4次浜松市教育総合計画の進捗について、まず事務局から説明をお願いします。

(教育総務課長)

第4次浜松市教育総合計画の進捗につきまして、説明をいたします。昨年度の総合教育会議の場におきまして、理念や目指す姿、方針などの当時の進捗状況を報告いたしました。本日は、案がまとまりましたので、それを報告するというごお願いいたします。

資料は、資料3とあるA3横の体系図で説明いたします。こちらの体系図は、計画期間をはじめとし、国の動向、現計画による成果や課題、基本理念、目指す姿、方針、政策など包括的に示しをするもので、第4次浜松市教育総合計画をできるだけわかりやすく体系的に示したものになります。まず、計画期間でございますが、左上のピンク色のところになります。2025年度から2034年度の10年間とするもので、そちらは市の総合計画の基本計画と同じ期間としています。

資料上段をご覧ください。次期教育総合計画における基本理念は、先ほど来、ワードとして出ております「描く夢や未来の実現」です。これは、国の教育振興基本計画で示され

た持続可能な社会の創り手の育成、日本社会に根差したウェルビーイングの向上といったコンセプト、また、現在の教育総合計画の理念、成果や課題を踏まえ、こどもやこどもの成長を支える全ての人々が、それぞれの夢や未来を描き、その実現に向かって行動していくことで、それぞれのウェルビーイングを向上させていきたいといった願いが込められています。

基本理念の下にある3つのキーワード、「主体性」、「多様性・包摂性」、「信頼・協働」が基本コンセプトになります。こどもたちを取り巻くそれぞれの立場の人々が、連携、協働し、こどもたちの描く未来の実現に向けて取り組んでいく様でございます。

基本理念と3つのコンセプトをイメージしたものが、真ん中の図となります。その両脇には目指すこどもの姿と、目指す教職員の姿が記載されています。こどもたちが他者と協働し、主体的に粘り強く取り組むことで、社会に変革をもたらす、持続可能な社会をつくり、教職員は自らの専門性と指導力を磨き続け、こどもの成長を支援する伴走者としての役割を果たしてまいります。

本計画では、基本理念や目指す姿を実現していくために、計画の3つの方針、3つの政策、25の施策を定めています。図の下のピンク色で囲ってある部分でございます。方針Ⅰ、緑色の部分はこどもに関する施策をまとめた「自分や浜松の未来を創る人づくり」。方針Ⅱ、水色の部分は教職員や学校の環境整備に係る施策をまとめた「安全・安心で魅力ある環境づくり」。方針Ⅲ、青色の部分は保護者や地域、NPOなどさまざまな人や機関との連携に関する施策をまとめた「こどもの学びや育ちを支える連携・協働」となっております。

こちらの体系図への記載はございませんが、各施策には、成果指標を設定しています。毎年度、成果指標の達成度を確認し、取り組みの見直しを図るなど改善につなげていく予定です。

現在のところ、以上の内容にて計画を冊子としてまとめ、パブリックコメントを実施しています。いただいた意見をまとめ、来年4月からの施行に向けて、調整を図ってまいりたいと考えております。説明は以上でございます。

(市長)

ありがとうございました。この第4次浜松市教育総合計画については、教育委員の皆さまは既に、たびたびご議論をいただいているところだと思いますので、今事務局から説明のありましたことその他、皆さんから補足の説明や、思いがありましたら、この際ですのでぜひご発言いただければと思っておりますが、いかがでしょうか。ここで言うと、未来をつくるの「つくる」は漢字なのですか。創造の創ですか。

(教育総務課長)

はい。国の教育振興基本計画の方では漢字を用いているので、そのまま用いていますが、大綱の方とどういうふうに整合を取るかというのは、また考えていかなければいけないと思います。

(市長)

委員の皆さまの方からいかがでしょうか。ちなみに、今後のスケジュールとしては、今パブリックコメント中ですが、それが終わって、どういう段取りですか。

(教育総務課長)

パブリックコメントでいただいた意見を取りまとめて市の考え方をお示しし、議会等への報告をしたうえで、成案化してまいります。各学校への周知も含めると、なるべく早くやっていきたいのですが、まとめるのはおそらく12月頃になろうかと思っておりますので、タイミングを計って学校に事前周知をしながら、成案化していく手続きを取っていこうと思っております。

(市長)

はい。皆さんからいかがでしょうか。

(教育長)

本当に今回の3つのキーワードが大きなポイントかなと。「主体性」、「多様性・包摂性」、「信頼・協働」、こちらをポイントにしながら、特に、議論の中でも出たのですが、描く夢の「描く」という部分、あるいは「粘り強く」という部分も、今まで以上に主体的に、意欲的な部分を取り入れた計画になっていると思います。

あと説明がなかったのですが、一番下の部分にある教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進であるとか教育データの利活用など、そういうものも土台にしながら計画がつけられている状況です。パブリックコメント、あるいはまたこの後、PTAの会等でも説明をしていく中で、皆さん方の意見を十分参考にしながら、より良いものにしていきたいと思っております。以上です。

(市長)

ありがとうございます。それでは他によろしいですか。

では5番目の報告事項についてもこの程度とさせていただきます。本日子定をしておりますが、この際何かありましたらどなたでも結構ですけれども、いかがでしょうか。

(神谷委員)

この計画を実現するにあたっては、優秀な人材とハードの整備と予算がかなりかかることが予想されます。教育関係に今でも多くの予算を付けていただいているのは重々承知ですけれども、引き続き必要なものについては、必要な予算を付けていただければと思います。特に、学校については、体育館等についてもエアコンの整備を全部していただきとは、多額の費用がかかるのでなかなか言いにくいのですが、もし災害時の拠点になるようであれば、そういった点も含めて、ただ単に学校に予算を付けるというだけではなく、幅広い視点の中で、教育関係に予算の方を付けていただければありがたいと思っています。

(市長)

非常に大変重要なテーマですので、しっかりと予算を確保していかなければいけないと思っています。ただ一方で、過去のこどもたちの数が急増した時期につくった学校等が、一斉にこれから更新時期に入る点からも、財源を必要とすることも多々出てくるものですから、ここはうまく知恵を絞って効率よくやりつつ、必要なところに必要な予算をしっかりと振り分けていけるような体制を、教育委員会事務局ともしっかりと相談しながらやっていきたいと思っています。

(神谷委員)

よろしくお願いします。

(田中委員)

先ほどの神谷委員の話と合うところがあるのですが、これから山間部の学校は、学校だけ、図書館だけ、と単独したものではなく、教育施設課からもよく説明は受けるのですが、やはり長いスパンで考えていったときに、いろいろな年齢の文化交流ができるような施設を考えていただき、地方の拠点となり、こどもたちや大人が集える場所を考えていただくことをぜひ推進していただきたいと思っています。

(市長)

山間部の方に行きますと、こどもたちは本当に数少なくなっているのはありますけれども、一方で先ほどの下鶴委員ではないですけれども、地域全体としてこども、子育て、教育を支えるというような環境が根付いているのも山間部の方だと思っていますので、そういった利点もうまく伸ばせるような体制づくりというのもひとつ、しっかり念頭に置きながら考えていかなければいけないと思っています。

(田中委員)

お願いします。

(市長)

それでは、ここまで皆さまには今日も大変活発にご議論をいただきましてありがとうございます。先ほど説明もありましたけれども、次回の2024年度総合教育会議は、12月から2月までの間での開催ということで予定をしているところでございます。その際には本日いただいたご意見、ご提案を踏まえて、教育推進大綱の最終案を提示させていただきまして、ご了解をいただけるようにと思っております。

また、加えて次回については、また新しい論点ということになりますけれども、先ほど来、教育推進大綱の中にも出てきておりましたけれども、不登校、あるいは外国人児童・生徒、そういった子どもたちへの支援の必要性が非常に高まってきているということもありますので、これらについてご議論、ご協議をいただければと思っておりますので、次回もまたよろしく願いいたします。

それでは、本日の議題は以上になりますので、あとは事務局の方で進行をお願いいたします。

6 閉会

(企画調整部長)

ありがとうございました。次回の第2回総合教育会議につきましては、また改めて委員の皆さまにお知らせをいたします。

これをもちまして、第1回総合教育会議を閉会いたします。ありがとうございました。

(終了)